

美術館だより

Contents

- 1 企画展「上田 薫とリアルな絵画」(近代美術館)
- 2-3 企画展紹介「上田 薫とリアルな絵画」(近代美術館)
- 4 企画展紹介「美-響く-コレクション名品選」(五浦美術館)
- 5 企画展紹介「いにしえを描く」(五浦美術館)
- 6-7 事業レポート
- 8-9 企業パートナー制度(近代美術館)
- 10 インフォメーション

No.120
Oct 1, 2021

茨城県近代美術館「上田薫とリアルな絵画」より



上田薫「なま玉子 B」
1976年 東京都現代美術館蔵

割れたなま玉子の殻から、黄身と白身が落下する瞬間が、巨大なキャンバスに描かれています。殻を持っているはずの人の手は描かれず、玉子は空中に浮遊しているようです。垂直方向に流れ落ちる透明な白身には、この玉子の周囲の様子が映り込んでいるように見えますが、具体的に判別することはできません。玉子を割るという行為は誰もが日常的に行いますが、この絵のように中身が落ちる瞬間のありさまを肉眼で認識することは困難でしょう。日常から導かれる非日常的イメージ、それが本作の魅力であり、見る者に新鮮な

驚きを与えるのです。

作者の上田薫(1928～)は、玉子を割る瞬間を高速シャッターにより何枚も撮影し、選び抜いた写真をプロジェクターでキャンバスに投影してその輪郭を写し取り、彩色するという手順で本作を制作しました。絵を完成させるのに1か月ほどの時間が費やされたといえます。ほんの一瞬の出来事が、手間と時間をかけて1枚の絵画作品へと昇華されているのです。

[近代美術館 学芸員 乾健一]

企画展紹介 上田薫とリアルな絵画

会 期：2021(令和3)年10月26日(火)～12月12日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

入 場 料：一般870(730)円／満70歳以上430(360)円／

高大生610(490)円／小中生370(240)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

※11月13日(土)茨城県民の日はすべての方が無料

※12月4日(土)は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県近代美術館

後 援：水戸市／茨城大学／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／

産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／

日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／

読売新聞水戸支局

協 賛：株式会社常陽銀行

特別協力：名古屋画廊

予約優先制

入場は当館ホームページから「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先入場となります

予約は、来館日の1ヶ月前より可能です(各時間帯の定員に達し次第、締め切りとなります)。

「日時指定WEB整理券」の詳細は当館ホームページをご覧ください。

展覧会の概要

上田薫(1928～)は、日本におけるスーパーリアリズムの第一人者として広く知られる画家です。1970年代に発表した「なま玉子」シリーズをはじめ、スプーンですくいとられたアイスクリームや、シャボン玉、水の流れといった、身近なものの見せる一瞬の姿をリアルに表現する作品によって、高く評価されてきました。上田は、写真を利用して対象をクローズアップで描くことにより、肉眼による認識をはるかに凌ぐ視覚世界を現

出させます。その作品は、見る者の知覚に揺さぶりをかけ、リアルをめぐる思索へと私たちを誘うことでしょう。また上田は、1985～93年にかけて茨城大学教授を務め、茨城を制作拠点とした本県ゆかりの画家でもあります。

本展では、上田の仕事を代表的なシリーズによって振り返るとともに、現代の作家によるリアルな絵画表現をあわせて紹介します。光がものを照らし出す複雑な様相や、人物表現における精神性や同時代性、見る者の意表を突くふしぎな世界など、彼らは各々の関心に基づいて、独自のリアリティを追究しています。半世紀を超える上田の表現の軌跡をたどることは、現代のアートシーンで隆盛する様々な作家たちのリアルな表現について考える上でも、重要な意味を持つことでしょう。

みどころ

序章：上田薫—玉子にみるリアル

まず会場で目に入るのは、上田薫の「玉子」シリーズです。殻から落ちるなま玉子に加えて、スプーンですくい取られたり、フライドエッグになったりと玉子の様々な姿が、大画面にクローズアップで描かれています。身近にあるものの一瞬の姿をリアルに描くという上田芸術のエッセンスが凝縮された「玉子」に、皆様は驚かれるに違いありません。

1章：いろんなリアル

対象を本物そっくりに描くリアルな絵画は、迫真的な表現を共通項としつつも、モチーフの選択や構成あるいは演出に画家の独自性が表われます。1章では、現代の画家たちによる多様なリアルの世界を紹介します。

序章



上田薫「玉子にスプーン B」1987年 当館蔵

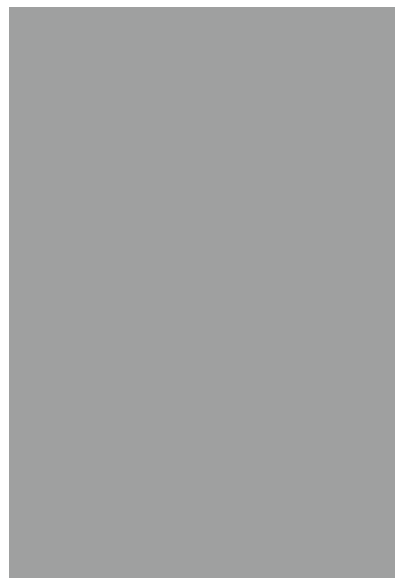
1章



橋爪彩「Girls Start the Riot」2010-11年
高橋龍太郎コレクション蔵



石井精一「豊の記憶(B)」1975年 山梨県立美術館蔵



山本大貴
「Standing Figure (feat. IKEUCHI Hiroto)」
2020年 個人蔵

果物が散らばるテーブルと、そこにのっている女性たちが描かれた橋爪彩の「Girls Start the Riot」は、西洋絵画の静物画などの伝統を踏まえつつ、謎めいた雰囲気で見ると見る者の視線を惹きつけます。一方、山本大貴の「Standing Figure (feat. IKEUCHI Hiroto)」は、アニメやSF、プラモデルなどサブカルの要素を取り入れて、現代的な女性像のあり方を追い求めた一点です。

本章の最後では、見る者の意表を突く「ふしぎなリアル」ともいえる作品に注目します。石井精一「畳の記憶 (B)」に描かれる和装の少女は、まるで右側の原稿用紙から歩き出てきたかのようです。背景の畳を含め、それぞれがリアルに描写されている一方、その現実にはあり得ないふしぎな世界は、見る者を惑わせます。

2章：光のリアル

上田は光の反射や透過を描き出すことに注力していますが、それは、「ものを描く」ことが「ものを照らし出す光のありようを表現する」ことでもあるからです。2章で

2章



伊庭靖子
「Untitled」
2009年
神奈川県立近代美術館蔵

は、現代の様々な作家たちによる光の表現に注目します。

クッションの布地が拡散する柔らかな光、逆光下の鮮烈な陰影、建物に差し込む硬質な光など、光が生み出す効果は千差万別です。クローズアップされた染付磁器とその表面の反射光を描いた伊庭靖子の「Untitled」は、その艶やかな光が見る者の目を捉えて離しません。

3章：上田薫のリアル

展覧会の最終章では、上田薫の作品世界を代表的なシリーズによってたどります。初期の上田は、靴やバラなど静的なモチーフを描いていましたが、スプーンから垂れるアイスクリームを描いた作品を端緒に、流動的な対象を描くことに取りかかります。写真を用いてももの一瞬の姿を写しとる上田のスタイルは、この頃に確立しました。その試みは、微細な泡を存在感たっぷりに描く「あわ」シリーズへと展開していきます。

茨城で活動した時期の上田は、北茨城に取材した「流れ」シリーズで初めて屋外にモチーフを求めるなど、制作上の転機を迎えました。その後、上田は「Sky」シリーズで、空の光景というこれまでにない壮大なスケールの対象を描くことに挑戦しました。そして、近年は一転して再び身近なモチーフに目を向け、野菜や果物が目にも鮮やかな「サラダ」シリーズをはじめ意欲作を発表しています。

上田薫と現代の様々な作家たちの多彩な作品を通して、「リアル」をめぐる豊かな絵画表現の世界をお楽しみください。

[近代美術館 学芸員 乾健一]

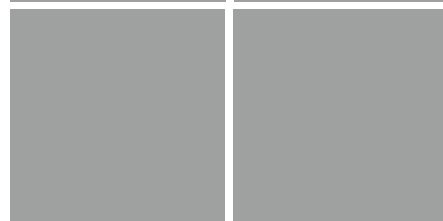
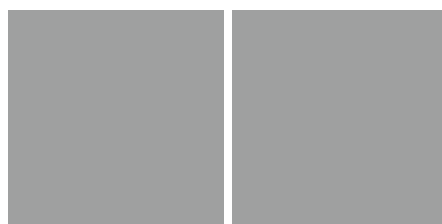
3章



上田薫「アイスクリーム A」1973年 個人蔵



上田薫「あわ D」1979年 個人蔵



上田薫「Sky A」2000年 個人蔵



上田薫「流れ C」1992年 所管：水戸芸術館



上田薫「サラダ E」2014年 個人蔵

企画展紹介 美一響くーコレクション名品選

会 期：2021(令和3)年10月3日(日)～11月23日(火・祝)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

入 場 料：一般730(630)円／満70歳以上360(310)円／

高大生520(420)円／小中生320(210)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

※11月13日(土)茨城県民の日はすべての方が無料

※10月9日(土)は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

茨城県近代美術館と茨城県陶芸美術館の所蔵作品から近現代美術工芸の名品約75点を精選して紹介します。岡倉天心の指導のもと制作された横山大観、木村武山らの五浦時代の日本画の他、中村彝の洋画、板谷波山の陶芸など茨城ゆかりの作家の作品を展示しています。さらに今回は、ヴラマンクの影響を受けた里見勝蔵と佐伯祐三、エコール・ド・パリの藤田嗣治の洋画をはじめ、京都画壇の日本画、戦後の前衛美術など、幅広い構成となっています。ジャンルを超えた美の響きあいをお楽しみください。

みどころ

横山大観「流燈」、木村武山「阿房劫火」は五浦の地で制作されたもので、彼らの代表作としても知られています。また、市井に暮らす情趣あふれる女性美を表現した鏑木清方の美人画も展示しています。

本展では、日本画だけではなく、洋画・彫刻・工芸などを展示に加え、さらに、茨城では馴染みの薄い関西の美術にも焦点を当てた構成を行い、みどころを増やしました。

京都の日本画では、村上華岳、小野竹喬、榊原紫峰の大正時代の作品を選んでいきます。彼らは、京都市立絵画専門学校(現京都市立芸術大学)の第一回卒業生であるとともに、1918(大正7)年に結成された革新的美術団体の国画創作協会の創立会員でもあります。華岳は仏画、竹喬は風景画、紫峰は花鳥画を得意とし、それぞれ異なる画風を展開させていきますが、華岳「菩薩座像」をはじめ、若き日の彼らの作品には、その萌芽が感じられます。

京都を拠点に活躍する日本画家、箱崎睦昌の荒れる海景色を表現した「佐渡」は、銀箔を硫化させた黒箔を使うことで絵に重厚感を持たせた現代の水墨画と呼ぶにふさわしい一作となっています。

関西ゆかりの前衛美術の展示コーナーでは、戦後、ヨーロッパで興った前衛的な芸術運動の影響を受け、日本画から洋画に転向した堂本尚郎の初期の抽象作品の他、足を絵筆代わりにする独特の手法で知られる白髪一雄のアクション・ペインティング、実用性を伴わないオブジェ焼きという新たなジャンルを生み出した八木一夫の陶芸などを紹介しています。

関西美術界ではお馴染みの作家たちですが、五浦でこんな名品に出会うという新鮮な体験を味わっていただくのが、本展担当のささやかな願いです。

[天心記念五浦美術館 主任学芸員 松尾敦子]



村上華岳「菩薩座像」
1917-24年
茨城県近代美術館蔵



横山大観「流燈」1909年
茨城県近代美術館蔵



箱崎睦昌「佐渡」2012年 茨城県近代美術館蔵



八木一夫「理解すること」1977年
茨城県陶芸美術館蔵



里見勝蔵「女」1930年頃 茨城県近代美術館蔵



堂本尚郎「1959-5」1959年 茨城県近代美術館蔵

企画展紹介 いにしえを描く

会 期：2021(令和3)年12月4日(土)～2022(令和4)年2月6日(日)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日(ただし、令和4年1月3日、10日は開館。
12月29日[水]～令和4年1月1日[土]、11日[火]は休館)
入 場 料：一般 320(260)円／満70歳以上160(130)円／
高大生 210(150)円／小中生150(100)円
※()内は、20名以上の団体料金
※障害者手帳等をご持参の方は無料
※土曜日は高校生以下無料(ただし、12月25日は除く)
主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

日本画は、明治期以降、時代の波に揉まれながらその伝統を守りつつ、変革を繰り返して現在に至っています。その中で、「歴史画」は神話や宗教的伝説等も含めて、重要なテーマとして多くの画家たちによって継承され、描かれてきました。

明治維新に始まる急激な欧化政策を背景とした近代化は、美術界においても混沌とした状況を生みます。しかし、十数年が経過すると当初の混乱は落ち着き、同時に伝統復帰の兆しが見え始めます。その後、岡倉天心が「歴史画」の重要性・必要性を説いたことなどから、各展覧会には歴史に取材した作品がこぞって出品され、秀作や名品が数多く生まれました。

戦後になると、戦意高揚に寄与していたことや民主化を目指す風潮から歴史画の出品が激減しますが、安田靫彦、前田青邨といった日本美術院の重鎮やその弟子たちによって、その後も継続して研究が進められました。その結果、天心が提唱した「歴史画」は新鮮な着想のもとに結実し、世に成果を示しました。



小川芋銭「石非羊」
1926年 個人蔵



河鍋暁斎「羅漢図」
1882年 個人蔵



松本楓湖「高津聖詠」
制作年不詳 個人蔵



木村武山「曾我兄弟」
1906-07年頃 個人蔵

本展では、河鍋暁斎、松本楓湖をはじめ、下村観山、木村武山、安田靫彦など日本美術院で活躍した画家たち、さらに現在も活躍を続ける画家の作品まで23点をととして、歴史画の変遷とその魅力を紹介します。

みどころ

我が国において「源氏物語」や「平家物語」など歴史的な事象や物語・文学をテーマに描くことは、古くから行われてきました。それは、いにしえへの憧れや偉人たちへの畏敬の念が多く、画家たちの心を捉え、動かし続けてきたからこそといえます。しかしそこには、単に歴史的な事項や古典を絵画化するに留まらず、その時代にふさわしい表現を探索し描きつづけてきた画家たちの理想や、先人が築いてきた歴史に真摯に向き合う画家としての姿勢がありました。

本展では、天心に従い、新しい日本画の創造に取り組んだ日本美術院の画家たち、とりわけ下村観山、木村武山、安田靫彦、前田青邨といった明治から昭和にかけて日本の美術史に大きな足跡を残した日本画壇を代表する画家たちの作品をととして歴史画の魅力に迫ります。

また、小川芋銭の「黄初平」「石非羊」は、同じ作家が、同じ題材(「列仙伝」)に取材した作品でありながら、登場人物の表情やレイアウトなどを変えることで、作品に全く違った印象を与えています。「石非羊」の淡い水墨で描かれた黄初平の穏やかな表情は、時間の流れさえも感じさせない空気感を湛えています。一方、木村武山の師である桜井華陵と下村観山による「竹林七賢」は、二人の作家が同じ題材に取材した作品です。画面の大きさや人物の配置・表情、背景表現などに独自性を与えることで、それぞれが捉えた賢者たちの様子が生き生きと描かれています。世代の異なるそれぞれの画家が捉え、解釈した表現の違い等を作品をととしてお楽しみいただけます。

さらに、松本楓湖「高津聖詠」、河鍋暁斎「羅漢図」をはじめ、計5作品が本県美術館で初めての展示となります。古典に学び、いにしえに憧れ、歴史に魅せられた画家たちの多彩な表現を是非ご堪能ください。

[天心記念五浦美術館 主査 村木正英]



木村武山「熊野」1902年 茨城県近代美術館蔵

茨城県近代美術館 アートフォーラム創作コーナー

「おうちでアート時間～つながるアート時間」

アートフォーラム創作コーナーでは、普段は来館したお客様にその場で簡単なものづくりを楽しんでいたいています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため外出を控える日々が続く中、美術館をより身近に感じ、自宅でも楽しく美術に親しんでもらう取り組みとして、4月27日から7月18日まで「おうちでアート時間～つながるアート時間」を実施しました。

企画展「日本画の150年 明治から現在へ」(2021年4月17日～6月20日)に合わせて、自宅で創作活動が楽しめるように、和紙を使ってこいのぼりと傘を作るための材料を当館職員が作成して、作り方説明書とともに配布しました。岩絵の具や染料を使って着色された和紙の風合いや色合いを楽しみ、色の組み合わせを考えながら和紙を真剣に選んで持ち帰るお客様の姿が多く見られました。また、来館しなくても作れるように、当館公式YouTubeチャンネルで、家庭で用意できる材料を用いた作り方を配信しました。そして、皆さんが動画を見ながら家庭で制作し美術館に持って来てくれた作品を、アートフォーラム創作コーナーで展示しました。会場には5月、6月の季節に合わせて色とりどりのこいのぼりや傘が展示されました。



こいのぼり／
展示の様子



材料配布の様子



和紙傘作り動画
「おうちでアート
時間ーカラフル和
紙傘をつくろう」
(当館公式
YouTube Chan-
ネルにて配信)

茨城県近代美術館 第2回美術館セミナー 美術教育講演会

「大人も受けたい美術の授業!自分だけの視点を手に入れるアート思考」

8月6日(金)に教員を対象とした美術館セミナーを開催し『「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考』の著者、末永幸歩氏による美術教育講演会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、講師は来館せず、自宅からZoom(Web会議システム)を使って講演を行いました。

講師の指示に従って、所蔵作品展やエントランスホールの彫刻作品を使ったりモット鑑賞ワークショップも行われました。はじめに参加者は、各自展示室で作品を鑑賞し、ワークシートに自分の気付きや考えたことを記入しながら、「自分なりのタイトルを作品につける」という演習を行いました。その後講堂に戻り、スクリーンに映し出された作品の画像を見ながら、講師との対話により意見共有を行い、同じ作品を鑑賞した参加者でも違った視点や感じ方があることを確認しました。

また、自宅や職場からもセミナーを受講できるように、美術教育講演会をYouTubeライブで配信しました。茨城県独自の緊急事態宣言により、当初来館で参加を予定していた方の半数以上は、ライブ配信の視聴に変更して参加していただきました。さらにオンラインを併用することにより、県外や海外の教育関係の方も視聴可能となるなど、広がりを持つ普及事業となりました。

参加者の感想には「子どもたちに、多様な見方や考え方を身に付けさせるための方法を掴むきっかけになった」「体験を交えたことで、講演の内容の理解がさらに深まった」「オンラインにより、感染症が拡大する中でも安心して参加することができた」といったものがありました。



美術教育講演会の様子



展示室内での演習



講師は自宅からオンラインで指導
(スクリーン右側)

茨城県天心記念五浦美術館 企画展関連イベント

リモートワークショップ①「墨 de 和傘」

企画展「ひろがる墨—五彩に出会う」関連イベントとして、小中学生を対象にワークショップ「墨 de 和傘」を行いました。用いた画材は「墨」。参加者は、うすい墨、濃い墨、なめらかな線、かすれた線……と様々な表現を用いてミニ和傘に絵を描きました。郵送とインターネットを使い、参加者の自宅にて制作する「リモートワークショップ」の形態にて実施し、館職員は制作キットに説明書や資料を同封したり、制作についての動画を配信したり（右写真）することで制作をサポートしました。



参加者からは「和傘をろくろのようにクルクル回しながら、筆を近づけたり遠ざけたりして描いたり、筆をブンブン振ったりし、工夫しました」「水で墨の濃さを変えながら墨汁を上から垂らし、傾きや向きを変えながら墨汁の流れで模様を描きました」「展示が楽しみです。見に行きます」との感想をいただきました。また、小学校1年生から中学校3年生までの参加者の他、企画展の出品作家である久保木桂子氏にも参加いただきました。

完成作品は企画展開催中、館内にて展示され、多くのお客様にご覧いただけました。特に参加者は墨を用いた自分の制作と企画展に並んだ墨による作家の作品を同時に鑑賞することで、様々な視点で企画展を楽しめた様子でした。

リモートワークショップは、年度内にあと1回予定しています。遠方の小中学生も自身の予定に合わせ、自由に参加できるリモートワークショップには、多くの可能性が秘められていると実感できる活動となりました。



〈活動期間〉

2021年7月1日(木)
～7月16日(金)

〈作品展示期間〉

2021年7月28日(水)
～8月17日(火)

茨城県つくば美術館 令和3年7月22日(海の日)

「コロナ禍の中での自由参加型ワークショップ」

例年、当館は地域との連携強化の一環として、地域の地区祭りイベントに模擬店ワークショップを出して参加しています。しかし、今年度はコロナ禍のためリモート型の祭りとなり当館はやむなく独自の開催となりました。

このため今回は祭り本部の広報もなく、ホームページによるお知らせ、当館内にチラシやポスターを掲示する程度の広報でコロナ禍もあって参加者の確保に不安をもった開催となりました。

内容は「石ころ絵画」の作成で、手のひらに収まるくらいのサイズの様々な形の石ころに、形からイメージしたものをアクリル絵の具で描画するものです。三密を避け多くの方々に体験していただくため1人40分を基本に、次のことに留意して実施しました。



ソーシャルディスタンスに配慮した会場と、短時間・少人数での実施、手の消毒、検温、マスク着用、使用した筆等の消毒、手袋の使用です。

また、当日の円滑な運営と内容の充実を図るため、指導者として当館の美術館ボランティア4名を配置しました。高い専門性を有するスタッフであり、参加者ひとりひとりに良いサポートをすることができました。

参加者数は予想を上回り50名。「また家でもやりたい、お父さんお母さんと一緒に楽しかった」等、大変好意的な感想が聞かれました。

ホームページ、館内でのポスター、チラシの掲示程度の広報で十分な集客ができたこと。当館のワークショップへの期待度の高まり。当館美術館ボランティアの有効活用等、今後のワークショップの在り方としての一考察になったと考えています。



茨城県近代美術館企業パートナー制度

プラチナパートナー企業のCSR活動の一部をご紹介します

株式会社常陽銀行

地域に密着した質の高い総合金融サービスの提供を通じ、地域と共生し、ゆたかな「地域社会」を創造する取り組みを行っています。

医療機関や地域社会を応援する活動【寄贈サービス付私募債】



寄贈した玩具で遊ぶ園児

お客さまが発行する私募債の手数料の一部を活用し、お客さまが希望する医療機関の運営を支援してコロナ禍における医療従事者を応援する取り組みを行っています。また、学校等に図書やスポーツ用品等を寄贈する「未来の夢応援債」やSDGsに取り組む団体等に物品等を寄贈する「社会貢献応援債」も取り扱っており、持続可能な社会の実現に向けて金融サービスを通じた地域貢献に努めています。

地域の芸術・文化振興と普及活動【常陽藝文センター】



常陽藝文センター

常陽藝文センターは、常陽銀行の創立50周年記念事業の一環として、1982年3月に設立、翌1983年7月から本格的に活動を開始した文化財団です。以来、「芸術・文化を通じて潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりある個人生活づくりに寄与する」ことを目的に、郷土文化の掘り起こしや文化の普及活動など幅広い事業を展開しています。

関彰商事株式会社

社会貢献活動への想い

奨学金制度、募金活動、地域イベントの協賛、ボランティア活動など、社員・会社が身近な社会貢献活動に様々な角度から取り組んでいます。これからも「地域の皆様と共に生きる企業」として、社会に貢献して参ります。



江崎玲於奈賞に単独協賛

ノーベル物理学賞受賞者江崎玲於奈氏の功績を讃えて創設されたこの賞は、ナノサイエンスとナノテクノロジーの分野における顕著な研究業績を顕彰し、科学技術振興と産業活性化に寄与することを目的として、茨城県が2003年に創設した日本の科学技術賞です。

当社はこの賞を地元企業として単独協賛をしており、2004年に第1回目の授賞式が行われ今年で18回目となります。



地域や社会の課題をスポーツで解決する

筑波大学アスレチックデパートメントと連携し、地域の皆様のウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に満たされた状態）向上を目指した各種プログラムの開発に取り組んでいます。この他、スポーツ文化の振興を願い、1995年より地元鹿島アントラーズとのスポンサー契約を締結。各地のマラソン大会では、社員がボランティアとして運営をサポートしています。

ザ・ヒロサワ・シティ

「自然」と「健康」と「文化」をテーマとして、110ヘクタールの土地に下館ゴルフ倶楽部を中心に、美術館、クラシックカーミュージアム、レールパーク、科博廣澤航空博物館など見て楽しめる施設、バーベキュー場、ドッグラン、マラソンコース、オフロードコース、芝生の広場など参加して楽しめる施設、専門学校、こども園、農園、クラインガルテン、レストラン、宿泊棟など様々な施設があります。

そのうちのいくつかをご案内します。



廣澤美術館

隈研吾氏は建物を6000トンの巨石で覆い隠しました。巨石で覆われた三角形の建物の周囲は3つの庭からなり、中西進氏により全体を「つくは野の庭」、それぞれ「浄」「炎」「寂」と命名されました。小径を巡りながら四季折々の花を楽しむことができます。芸術の森分館、石の美術館なども本館のチケットでご覧いただけます。

本館では「華麗なる洋画の世界展」(後期:10/8～12/12)を開催中!



科博廣澤航空博物館

国立科学博物館が大切に保存してきた戦後初の国産機であり、機械遺産にも指定されている「YS11」や、南極観測船宗谷に搭載され、太郎次郎を救出したヘリコプター「シコルスキー S58」のほか、ゼロ戦(零式艦上戦闘機)が展示されます。敷地内に鉄道、クラシックカー、クルーザーなども併せて整備し、2022年1月から一般公開予定です。

株式会社アダストリア

「ファッションのワクワクを、未来まで。」をサステナビリティポリシーとして掲げ、重点テーマの一つに「地域と成長する」を定めています。ファッション企業らしく、地域のお客さまや従業員とともに新しい価値を楽しく創造する活動を行っています。



店頭の回収ボックス

「Play Cycle！」衣料品を回収し新しい資源に再生

Play Cycle!は、2016年から継続している衣料品回収プログラムです。全国の商業施設を中心に回収イベントを行うほか、店頭回収ボックスを常設し、これまで累計約9万着の衣料品を回収、リサイクルしてきました。回収した衣料品は、再生ポリエステルや自動車の内装材などの新しい資源に生まれ変わります。茨城県内では、GLOBAL WORKイオンモール水戸内原店、M-SPO TERRACE BLUE×BLUE(茨城ロボッツ運営)にて回収を行っています。



アダストリアみとアリーナ

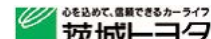
ファッションの力でスポーツをもっと楽しく

プロバスケットボールリーグB.LEAGUE所属の茨城ロボッツのメインスポンサーを務め、コラボグッズの販売や、3rdユニフォームのデザインを手掛けるなどファッション企業ならではの取り組みでチームを応援しています。このほか、茨城ロボッツのホームスタジアムでもある水戸市の東町運動公園体育館の命名権を取得し、地元のみなさまがスポーツを楽しむ場として「アダストリアみとアリーナ」の愛称で親しまれています。

企業パートナーの皆様



近代美術館友の会



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

10月～12月のご案内

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《上田薫とリアルな絵画》 10月26日【火】～12月12日【日】

・講演会「リアルの基層と現在」
【講師】木下亮氏（昭和女子大学教授）
期日：11月6日【土】
時間：午後2時～午後3時30分
会場：地階講堂
定員：100名 ※要事前申込／参加費：無料

・ワークショップ「写真をもとに描く」
【講師】田邊光則氏（本展出品作家）
期日：11月27日【土】
時間：午前10時～午後3時（昼休憩あり）
会場：地階講堂
対象：一般
定員：20名
参加費：500円
※要事前申込／要企画展チケット半券（当日以外の消印可）

・学芸員による鑑賞講座
【講師】乾健一（本展担当学芸員）
期日：10月30日【土】
時間：午後2時～午後3時30分
会場：地階講堂
定員：100名 ※要事前申込／参加費：無料

・令和3年度 第1回ミュージアムコンサート
「イヴニングコンサート—超絶技巧への誘い—」
【出演】Voisines Trio（山崎響子〈ヴァイオリン〉、
木下通子〈チェロ〉、永田絵里子〈ピアノ〉）
期日：12月12日【日】
時間：午後5時45分～午後6時45分
会場：当館エントランスロビー
定員：100名程度
※要事前申込／要企画展チケット半券（当日以外の消印可）

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 秋》 10月28日【木】～11月28日【日】

《所蔵作品展 第2展示室》

《こころの おと》 10月28日【木】～11月28日【日】

《アートフォーラム展示》

《油彩の技法と画材について》 10月26日【火】～1月23日【日】

《その他のイベント》

・子どものためのワークショップ2021 秋
期日：11月20日【土】、11月21日【日】
会場：地階講座室他
協力：茨城大学教育学部

・令和3年度第2回美術館アカデミー
【講師】小口あや氏（茨城大学教育学部助教）
期日：11月7日【日】
時間：午後2時～午後3時30分
会場：地階講座室または講堂
定員：30名程度 ※要事前申込／教員等

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～
会場：2階アルスホール
料金：無料

10月30日【土】
・第7回「美—響く—コレクション名品選」
【講師】松尾敦子（天心記念五浦美術館主任学芸員）

11月13日【土】
・第8回「上田薫とリアルな絵画」
【講師】乾健一（茨城県近代美術館学芸員）

12月11日【土】
・第9回「開館20周年記念事業 笠間陶芸大賞展の全貌」
【講師】飯田将吾（茨城県陶芸美術館主任学芸員）

《貸ギャラリー展》

10月5日【火】～10月10日【日】
・茨城の建築家展 カーサコチ【建築】

10月12日【火】～10月17日【日】
・第20回仏像彫刻同好会「陸」展【彫刻】

10月26日【火】～10月31日【日】
・おうちでアート・ディキャンポ2021展【絵画】

11月2日【火】～11月7日【日】
・茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会（写真部門）【写真】

11月9日【火】～11月14日【日】
・第18回DC展 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程芸術
専攻・人間総合科学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム
（博士後期課程）研究成果展【総合】

11月16日【火】～11月21日【日】
・第37回MC展 筑波大学大学院人間総合科学術院人間総合
科学術院芸術学学位プログラム
（博士前期課程）洋画・版画・日本画 作品展【絵画・版画】

11月23日【火・祝】～11月28日【日】
・後藤雅宣展【絵画】

11月30日【火】～12月5日【日】
・第25回七彩会【絵画】
・Cocktails and Dreams ジョン・ホームウッド展【彫刻】

12月7日【火】～12月12日【日】
・第76回県南高等学校連合美術展【総合】

12月14日【火】～12月19日【日】
・第25回取手松陽高校美術科展【総合】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《美—響く—コレクション名品選》 10月3日【日】～11月23日【火・祝】

・展覧会担当による作品解説
期日：10月24日【日】、11月6日【土】
時間：午後1時30分～（約30分）
会場：講堂
定員：30名 ※参加無料、要事前申込（先着順）

《いにしえを描く》 12月4日【土】～2月6日【日】

・展覧会担当による作品解説
期日：12月18日【土】、2022年1月16日【日】
※変更の可能性あり
時間：午後1時30分～（約30分）
会場：講堂
定員：30名 ※参加無料、要事前申込（先着順）

《その他のイベント》

・第32回トワイライトコンサート「オーボエとピアノの調べ」
出演：山田涼子（オーボエ）、手根美沙恵（ピアノ）
期日：10月16日【土】
時間：午後5時～（約60分）
会場：エントランスロビー
定員：70名 ※参加無料、要事前申込（先着順）

・来て見て発見！アートツアー for kids
期日：11月21日【日】
時間：午前の部 午前10時～12時、午後の部 午後1時30分～3時30分
定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで） ※参加無料、
要事前申込（抽選制）

《映画会》

会場：講堂
定員：30名 ※無料、要事前申込（先着順）
時間：各日午前10時30分～
・10月10日【日】「ロイドの二挺拳銃・ロイドの猛進結婚」18分
「日本の美術館シリーズ 茨城県近代美術館」28分
・11月14日【日】「展覧会の絵」39分
「作家をたずねて 松井康成」24分

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合がございます。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <http://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大洋町椿2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日来館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます）
○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務中等教育 特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者
○国際交流事業として国外から本県に留学している方
○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方
並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）
○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜お知らせ＞

新型コロナの感染状況を考慮し、友の会主催の行事につきましては当面中止または延期とさせていただきます。感染状況の好転等変化に応じて対応いたします。今しばらくお待ちください。

「令和3年度茨城県芸術祭美術展覧会 10月2日（土）～17日（日）」につきましては「友の会会員証」の提示により無料でご覧いただけます。会員証が無いと有料となりますのでご注意ください。

＜あなたも友の会会員になりませんか＞

茨城県近代美術館友の会は、美術を愛好する人たちが集い、美術館の活動を支援しながら、会員相互の教養を高め、親睦を図ることを目的として、幅広い活動をしています。
茨城県天心記念五浦美術館と共通の友の会です。



- 近代美術館と天心記念五浦美術館のすべての展覧会が無料！！
- 海外美術鑑賞旅行や国内美術鑑賞旅行に参加できます。
- 美術講座、学芸員によるギャラリートークに参加できます。
- 会報誌「游美」3回／年、友の会行事案内・美術館資料が郵送されます。
- 図録購入、レストランでの食事に割引があります。

詳しいお問い合わせ

- ・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは 県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）または 県天心記念五浦美術館（☎0293-46-5311）にお問い合わせください。
- ・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>